

(対象事業：1.地域の中核として他館や他関連機関と連携して行う事業
2.先進的な展示・教育普及手法の開発等の事業)

事業名：「鑑賞用補助教材」研究開発事業

事業者名：福島県立美術館

連携事業館名：郡山市立美術館、郡山市立東芳小学校

住所：福島市森合字西養参1番地

TEL：024-531-5511

FAX：024-531-0447

HPアドレス：<http://www.art-museum.fks.ed.jp>



①施設概要

福島県立美術館は、福島市の市街地の北に位置する信夫山の麓にあり、6万平方メートルを超える広大な敷地に県立図書館と併設され、昭和59年7月22日に開館した。絵画、彫刻、工芸など1800点余の美術作品を収蔵しており、福島県白河市出身の画家関根正二を中心とする同時代に活躍した画家の作品、ペン・シャーン、アンドリュース・ワイエスら20世紀アメリカの具象絵画、会津坂下町出身の版画家・斎藤清のコレクションを特色としている。また、実技教室や様々な鑑賞者向けの普及活動も盛んに行っている。

②事業の意図目的

複数の美術館と学校が連携した新しい鑑賞教育のあり方として、作品を限定せずにごこの美術館でも使用できる汎用性と簡便性、子どもたちの美術作品に対する興味・関心を喚起する遊戯性を重視したオリジナルの鑑賞用補助教材を開発する。

③事業概要

本事業は、これまで当館で実施してきた学校連携事業の成果を踏まえ、県内美術館の学芸員と小学校教師らによって進められた。この鑑賞用補助教材は、9個の立方体を用いて、作品の素材や造形要素、制作工程への関心を感じ覚的に促したり、多角的な鑑賞が楽しめるように工夫されている。絵画の筆致を実際に触れて確認できる「タッチキューブ」、各種版画の原版を組み合わせた「版画キューブ」、ゲーム形式の鑑賞活動が楽しめる「おみくじキューブ」の他に、「絵画キューブ」「素材キューブ」「人形キューブ」「カラーキューブ」「感覚キューブ」「プレイキューブ」をセットにして「アート・キューブ」と名付けた。製作後、教師が美術館で小学6年生を対象に「アート・キューブ」を用いた授業を行い、同時発行のガイドブックに使用例として紹介した。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他（鑑賞用補助教材「アート・キューブ」、ガイドブック及びパンフレット）

作成した報告書等

ビデオ（

冊子（上記ガイドブック及びパンフレット

その他（鑑賞用補助教材「アート・キューブ」、平成16年度芸術拠点形成事業（展覧会事業等支援）事業報告書）

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 37人

内 訳 郡山市立東芳小学校6年生

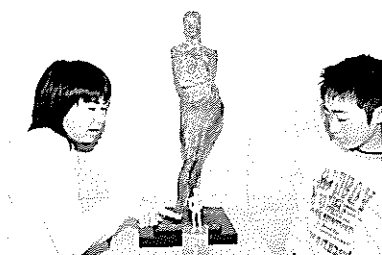
（１）事業の実施状況について

○「アート・キューブ」を用いた美術館における鑑賞授業

日時：平成１７年２月１０日（木）午前１０時３０分～午後１２時３０分

内容等：郡山市立東芳小学校教諭 佐藤禎仁氏の指導により同校小学６年生３７名を対象に「アート・キューブ」を用いた鑑賞の授業を郡山市立美術館・常設展示室において行った。彫刻や絵画を前にして、９種類の「アート・キューブ」のそれぞれの機能や使用法を試行し、授業の様子や使用例及び生徒の反応をガイドブック及びパンフレットに写真等で掲載した。

それぞれのキューブを使用している様子



人形キューブ



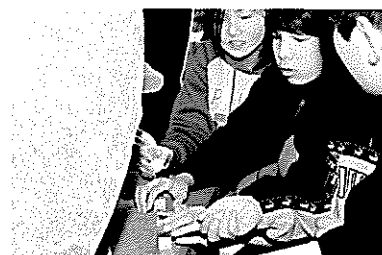
タッチキューブ



カラーキューブ



絵画キューブ



素材キューブ



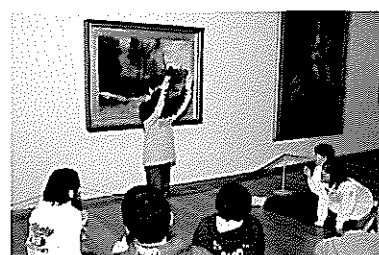
おみくじキューブ



版画キューブ



感覚キューブ



プレイキューブ

＜参考事業＞

上記事業の成果を受け、平成16年度内に福島県立美術館で鑑賞用補助教材「アート・キューブ」を用いた以下の事業を開催した。

事業名：わんぱくミュージアム3「びじゅつ探検ツアーズ！」

日時：平成17年3月13日（日）13：30～15：30

内容：「アート・キューブ」を使って常設展示室において小学生13名（小1～小5）を対象に当館学芸員の指導で作品をゲーム形式で鑑賞した。

わんぱくミュージアムは、年3回開催している小学生対象の美術講座で、主に1日を単位として創作を中心に行っているものであるが、今回はその枠を充てての開催であった。参加者は事前に美術館ニュースや新聞に広報して募った。

備考：参加者の多くが「アート・キューブ」そのものに遊具的な興味を示し、小学生などを対象とした少人数（10名前後）の鑑賞体験において、あくまで作品に親しむ契機を作る一つの媒体としての役割が期待できる。

一般に、指導者を介して用いられる際は、使用目的、対象年齢、人数、使用時間、使用場所、他の一般来館者への配慮等様々な条件を考慮した柔軟な活用が求められるよう。

（2）地域との連携について

本事業は郡山市立美術館、郡山市立東芳小学校との連携においてなされた。

ガイドブックの無料配布を通じて、教材の普及と鑑賞学習の推進を図るとともに、地域との連携を視野に入れた以下のような活用が想定される。

- ① 芸員が、児童生徒を対象に「アート・キューブ」を用いたワークショップを美術館で行う。
- ② 「アート・キューブ」を学校に貸しだし、教師が美術館で鑑賞の授業を行う。
- ③ 活用状況を撮影・記録し、その利点や問題点を検証する調査研究を学芸員と教師で行う。
- ④ 一般来館者に貸し出して利用をはかる。

(3) 成果物について

成果物の内容は事業概要に記したとおりである。

その活用にあたって鑑賞用補助教材「アート・キューブ」のガイドブックおよびパンフレットを協力関係者、県内小・中学校・高校および国内美術館・博物館に配布した。

また、「アート・キューブ」は、当館のほか連携事業館等の郡山市立美術館および郡山市立東芳小学校に設置して利用をはかることとした。

(4) 参加者の反応

小学6年生の授業では、2時間のうち前半は、6人のグループを6班作り、各班が6種類のキューブ（「カラーキューブ」「人形キューブ」「タッチキューブ」「素材キューブ」「絵画キューブ」「版画キューブ」）の中から1種類を用いて鑑賞を行った。後半は、12人のグループを3班作り、各班が3種類のキューブ（「感覚キューブ」「おみくじキューブ」「プレイキューブ」）の中から1種類を用いてファシリテーターのもとに鑑賞を行った。

授業の前半においては、キューブ本体そのものへの好奇心が徐々にその使い方へと移り、作品とキューブとの関係性や鑑賞方法を児童自らが積極的に追求する姿が認められた。後半は、作品から受けた印象や感想を言葉や身を使って表現することで参加者同士のコミュニケーションが図られ、他者の感想を通して作品の多面性に気付くなど、楽しみながら鑑賞を深めている様子が伺え、反応は大変良好であった。なお、各キューブに対する感想の詳細はガイドブックに掲載したとおりである。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

「アート・キューブ」の最大の利点は、作品に触れられない美術館において、実作品を前に「見て・触れて・感じる・考える」活動を可能にする点にある。体験の中で常識が覆される発見や、素材と制作工程の意外性に驚く気持ちなどが幅広い作品鑑賞へと子どもたちを導いてくれた。